

第4学年 社会科学習指導案

令和7年7月3日 (木)

場所 4年3組 教室

1 単元名 住みよい暮らしをつくる

小単元名 ごみの処理と再利用

2 目標

廃棄物を処理する事業について、処理の仕組みや再利用、都内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり、地図などの資料で調べたりしてまとめ、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業の果たす役割を考え、表現することを通して、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効活用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域社会の一員として自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。

3 評価規準

- 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、廃棄物の処理のための事業の様子を理解している。
(知識・技能)
- 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、問い合わせを見出し、廃棄物の処理のための事業の様子について考え表現している。(思考・判断・表現)
- 廃棄物を処理する事業について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

4 単元について

本内容は、主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に区分されるものであり、人々の健康や生活環境を支える事業についての学習で身に付ける事項を示している。人々の健康や生活環境を支える事業とは、飲料水、電気、ガスを供給する事業と廃棄物を処理する事業を指している。

ここでは、廃棄物の処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめ、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現することを通して、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効活用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにすることがねらいである。

5 児童の実態

前単元の「水はどこから」では、生活で使う水について調べたいことや疑問に思ったことについて、グループごとにまとめ、学習問題を考えた。4年生になって初めて学習問題を全員で考える活動をし、K J法を活用して取り組んだ。グループ活動では、互いに協力して活動する姿が見られたが、学級の中には個人で考えをまとめることが苦手な児童が数名いる。そのため、社会科だけでなく、各教科でペアやグループで話し合う時間を取りながら、個人で考えを書かせるようにしている。

本時では、ごみに関する疑問点を個人で出させた後、K J法を活用してグループ分けをさせる。その際、一人で考えることが苦手な児童も、協働的に取り組むことで自分の考えや疑問点を出すことができるようさせたい。

6 研究の視点（子供の思考を促す教員のはたらきかけ）

【B 学びを生かす掲示や環境デザイン】

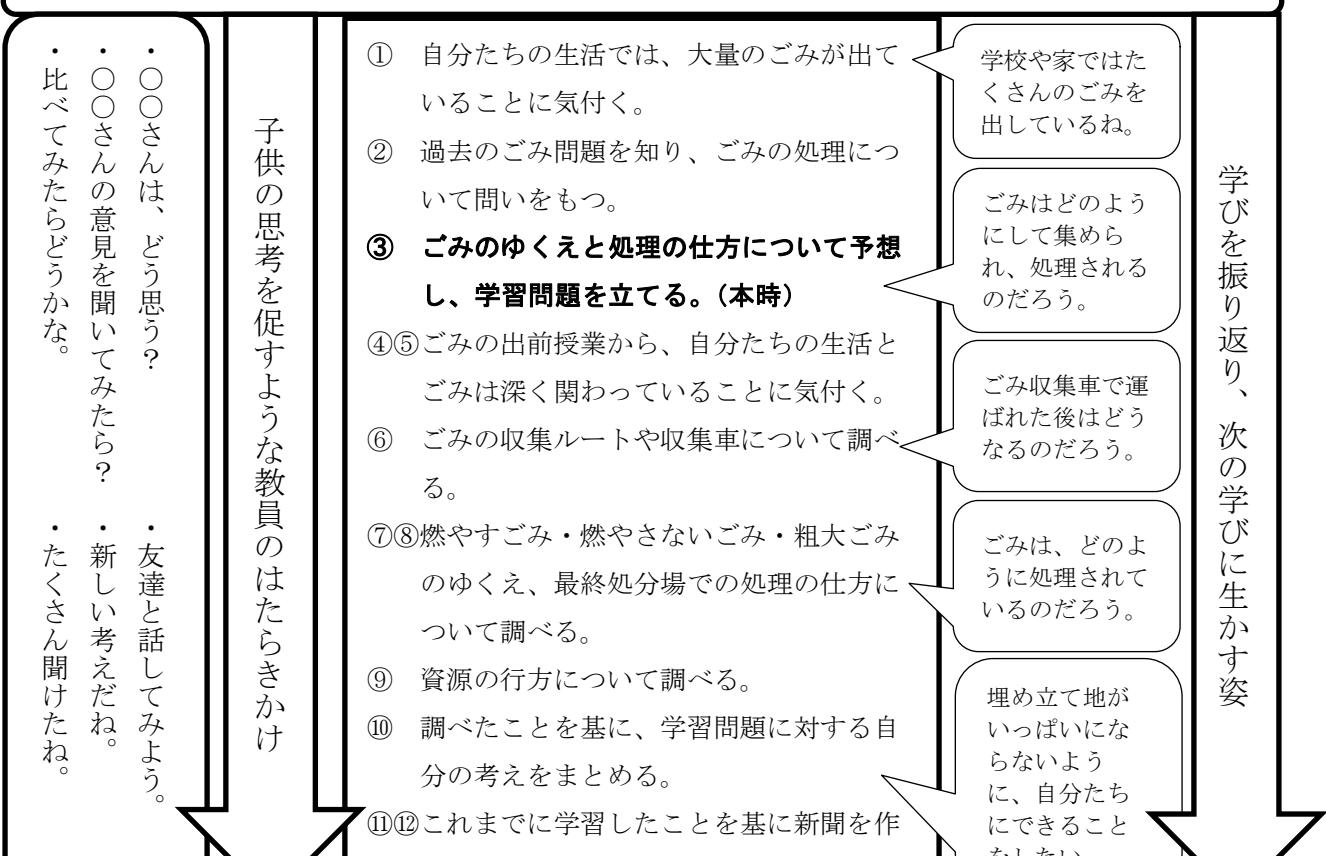
- ・ごみに関する写真や資料をロイロノートで配布し、児童が自分の手元で見ながら考えを書くことができるようとする。
- ・グループ活動では、他のグループを参考にしたり、資料を黒板に提示していつでも見られるようになりすることで、自分たちの考えをまとめる際の手助けとなるようとする。

【D 協働的に学び、思考を深める場の設定】

- ・学校や家庭のごみを調べたり、学校の近所の集積所の看板を提示したりすることで、ごみの問題を自分事として捉えられるようとする。
- ・生活の中で出されるごみについての資料を見て、疑問に思ったことを付箋に書き、KJ法を用いてグループピングする。一人一人が意見を出しやすい環境をつくり、班ごとに情報を整理して学び合いができるようとする。

7 単元構想（12時間扱い 本時3／12）

【単元を貫くめあて 主体的に学習問題を追究・解決する】



【単元を通して 目指す子供の姿】

ごみについての気付きや疑問から学習問題を作成し、解決していくことで、自分たちが健康で快適に過ごせる理由を知り、自分たちにできることは何かを考える姿

8 本単元における、主体的に考え、共に学び合う子供の姿

本単元における「主体的に考え、共に学び合う子供の姿」とは、ごみ問題を自分事として捉え、友達と協働的に問題解決に向かう姿であると考える。ごみの処理やその再利用に携わる様々な人々に会い、実際に話を聞く場面を設定することで、資料の読み取りだけでは分からない人々の工夫や努力、その思いや願いについて主体的に考えられるようとする。

9 本時の目標（3／12）

- ・ごみのゆくえと処理の仕方について話し合い、学習問題を立てることができる。

10 学習過程

	○学習活動・内容 T：教員の発問 C：児童の反応	・指導上の留意点 ◇評価規準（評価方法） ★研究の視点
導入	<p>○前時の学習内容を振り返る。 T：資料を見て、気付いたことがありましたね。 C：曜日によって出せるごみの種類が違う。 C：いろいろな種類のごみを出すことができる。 C：燃やすごみは週に2回出すことができる。 C：英語で書いてあるところがある。</p> <p>○めあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の近くの集積所の看板、学校のごみ置き場の写真を提示し、どのようなごみが出されているのか自分事として捉えさせる。 ・前時でノートに書いた気付いたことの中から、疑問につながりそうな考えを数名発表させる。 <p style="text-align: center;">ぎ問や気付いたことから学習問題をつくろう。</p>
展開	<p>○疑問に思ったことを付箋に書く。 T：これまでごみについて学習してきたことの中で、疑問に思ったこと、調べたいことを付箋に書きましょう。 C：ごみは収集車で運ばれた後、どうなるのだろう。 C：いろいろな種類のごみは、どのように処理されるのだろう。 C：なぜごみを分けて出すのだろう。 C：なるべくごみを少なくするためににはどのようにしたらよいだろう。 C：ごみを埋め続けたらいつか埋める場所がなくなりそうだけれど、どうするのだろう。</p> <p>○班ごとに、付箋を模造紙に貼り、グループ分ける。 T：同じ考え方や似ている考え方の付箋をグループ分けしましょう。 T：グループに分けたら、そのグループに名前を付けましょう。 T：キーワードをつなげて、これからみんなで学習していく大きなテーマとして、学習問題を考えましょう。</p> <p>○学習問題を考える。 T：みんなの疑問をまとめて、学習問題をつくります。疑問に思ったことをまとめると、どのような言葉になるでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を想起させ、ノートや資料を見ながら疑問を出させる。 ・一人ずつ付箋を書かせ、模造紙にランダムに貼らせる。その中で、キーワードになりそうな言葉や文章には線を引き、注目させる。 (キーワード：収集、処理、ごみの行方、どこへ、運ばれた後、埋めるなど) ★ごみに関する写真や資料をロイロノートで配布し、児童が自分の手元で見ながら考えを書くことができるようにする。【B学びを生かす掲示や環境デザイン】 <p>★生活の中で出されるごみについての資料を見て、疑問に思ったことを付箋に書き、KJ法を用いてグループピングする。一人一人が意見を出しやすい環境をつくり、班ごとに情報を整理して学び合いができるようにする。【D協働的に学び、思考を深める場の設定】</p> <p>★グループ活動では、他のグループを参考にしたり、資料を黒板に提示していつでも見られるようにしたりすることで、自分たちの考えをまとめる際の手助けとなるようする。【B学びを生かす掲示や環境デザイン】</p> <p>◇廃棄物を処理する事業について、疑問点やその理由について考えようとしている。 (発言・付箋・ノート)</p> <p style="text-align: center;">学習問題：ごみはどのようにして集められ、しょ理されるのだろうか。</p>
まとめ	<p>○ふりかえり T：今日の学習で学んだことや、これから調べていきたいことを伝えましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の疑問に思ったことから、学習問題をつくる。